

# GOD WITH US

Part 2: Conquest and Chaos  
Joshua – Judges – Ruth

Message 6 – Judge Deborah  
Judges 1-5  
November 1, 20015

## 神は我らと共に

パート2：征服と混乱  
ヨシュア―士師記―ルツ記

第6メッセージ ― 士師デボラ  
士師記1―5章

### はじめに

士師記はイスラエルのが約束の地に落ち着いた後に続く最初の350～400年間のイスラエルの歴史を記している。「全ての国々のための祭司国家」となり、神を世界に現すことがイスラエルに託された神の目的であった。

(出エジプト19：5, 6)。ところが、悲しいかな、証人としてのイスラエルはたちどころに妥協し、土地に留まったカナン人の宗教的実践を採用した。神の真の目的を実現するために、神に従順であることに怠ってしまった結果、神は何度も繰り返しイスラエル国家が他国によって虐げられることをお許しになった。弾圧の重圧下でイスラエル国家は何度も神の赦しと救出を叫び求めた。このようにして、イスラエルを弾圧から救うために、神よって強められた士師(裁き司・裁判官)としての指導者たちがあげられた。それぞれの士師の物語は興味深く衝撃的である一方、士師記のより広範なメッセージには驚かされる：イスラエル国家は、ヤハウエである神と結んだ契約の中で、彼らの役割を果たすことに怠ったために、その結果、約束された呪いのすべてを経験したのである(申命記27, 28章)。この本の終わりでは全ての人間が個人的な判断によって正しいと思われることを行い、イスラエルは靈的に完全に遠のいた状態へと陥ってしまった(士師記21：25)。この学びのタイトルでもある混乱という語彙は聖書のこのセクションにふさわしいと言える。

## ユダ部族が率いるさらなる征服： 1：1－26

ヨシュアの死後、土地の領内には、まだまだ征服しなければならない領土が残っていた。そこで疑問が生じた：ヨシュアの死後、戦いへイスラエルを率いる指導者は誰か？神がその疑問に答えられた：ユダ部族が攻撃の先頭に立つ。ユダ部族は、後に救世主を産みだす部族となる。ユダの指揮のもと更に多くの土地を征服することに成功した。この文脈にカレブの個人的征服について再び述べられている(参照：ヨシュア15：13－19)。ユダの部族からであったことから、指導者としてのカレブの継続的な役割を指しているように考えられる。ところが、ユダの部族とカレブの指導下にもかかわらずイスラエルは継承を乗っ取る度に神に信頼することを怠ってしまった：

主がユダと共におられたので、ユダはついに山地を手に入れたが、平地に住んでいた民は鉄の戦車をもっていたので、これを追い出すことができなかった。(士師記1：19)

ベニヤミンの人々はエルサレムに住んでいたエブスびとを追い出さなかったので、エブスびとは今日までベニヤミンの人々と共にエルサレムに住んでいる。(1：21)

マナセはベテシャンとその村里の住民、タアナクとその村里の住民、ドルとその村里の住民、イブレアムとその村里の住民、メギドとその村里の住民を追い出さなかったので・・・(1：27)

またエフライムはゲゼルに住んでいたカナンびとを追い出さなかったの  
で・・・(1：29)

ゼブルンはキテロン  
の住民およびナハラルの住民を追い出さなかったの  
で・・・(1：30)

アセルはアッコの住民およびシドン、アヘラブ、アクジブ、ヘルバ、アビク、レホブの住民を追い出さなかったの  
で・・・(1：31)

ナフタリはベテシメシの住民およびベテアナテの住民を追い出さず  
に・・・(1：33)

アモリびとはダンの人々を山地に追い込んで平地に下ることを許さなかった。(1:34)

不完全に占領した領土の問題(中途半端な服従)は、結果的に、土地に強固に留まったカナン人によってイスラエル国家をヤハウエへの純粋な献身から遠ざける方向へと誘惑されることとなり、士師記の中での重大な問題となっていた。

捕虜となったカナン人の王の中の一人に対するイスラエルのとった処置について前に記されている記述から、神とこれらの国々との取引の中で機能する主要な原則へと導く洞察を得ることが出来る：報復正義。しかし、アドニベゼクは逃げたが、彼らはそのあとを追って彼を捕え、その手足の親指を切り放った。アドニベゼクは言った「かつて七十人の王たちが手足の親指を切られて、わたしの食卓の下で、くずを拾ったことがあったが、神はわたしがしたようにわたしに報いられたのだ」。人々は彼をエルサレムへ連れて行ったが、彼はそこで死んだ(1:6, 7)。新約聖書の「黄金ルール」に：人にしてほしいと思うことを人にしなさいとある。旧約聖書の「報復のルール」には：あなたが他の人に行ったように、あなたにも行われると言っている。カナン人が受けた厳しい裁きは、彼らがこれまで他の人々に対して行ってきたやり方の上に400年もの間忍耐強く待ち続けてこられた神の主権と報復正義を反映する。

イスラエルに対する主の叱責：2:1-5

主の使がギルガルからボキムに上って言った、「わたしはあなたがたをエジプトから上らせて、あなたがたの先祖に誓った地に連れてきて、言った、『わたしはあなたと結んだ契約を決して破ることはない。あなたがたはこの国の住民と契約を結んではならない。彼らの祭壇をこぼたなければならぬ』と。しかし、あなたがたはわたしの命令に従わなかった。あなたがたは、なんということをしたのか。それでわたしは言う、『わたしはあなたがたの前から彼らを追い払わないであろう。彼らはかえってあなたがたの敵となり、彼らの神々はあなたがたのわなとなるであろう』と」。主の使がこれらの言葉をイスラエルのすべての人々に告げたので、民は声をあげて泣いた。それでその所の名をボキムと呼んだ。そして彼らはその所で主に犠牲をささげた。(2:1-5)

イスラエルの罪は中途半端な服従であった。彼らは、神への献身の肝心な要において妥協してしまった。(フレーズに注意：「しかし、あなたがたはわたしの命令に従わなかった。」)その結果、カナン人による誘惑という形のとげとわなで印され、彼らに追い出すことの出来なかったカナン人から誘惑と試練を受けた。(神の応答に注意：『わたしはあなたがたの前から彼らを追い払わないであろう。』)神は、イスラエルの従順と不従順を踏まえて応答された。この箇所は士師記全体の理解を深めるのに重要である：中途半端な服従は、繰り返し神から離れた生き方へと導き、その結果、神の裁きと患難をもたらした。

中途半端な服従(心の半分だけ従うこと)は、自己破滅させる戦略である。通常、私たちの生活の中で、神に信頼していない部分を留め置こうとするので中途半端な服従となってしまう。代わりに、自分自身の管理に信頼しているのである(人間関係、仕事、趣味、資源、技能、夢)。私たちは、パイを丸ごと神に差し出すことができず、一部分だけを渡し、残りは自分の安全な管理下に置いているのである。しかし、最も頻繁に、私たちが自分の管理下に置いている、まさにその部分そのものが、長期的に痛みをもたらすことになる。これらの競合する神々は私たちに陥れる結果となる。イエスは、彼に部分的に従いたいという沢山の人に出会った(ルカ9:57-62)。ある人たちは、安全と快適さを保つことができるのであれば従いたいと考えた。またある人たちは、地上の家族との固い繋がりと献身を保ち続けることができるのであれば従いたいと考える。そして、またある人たちは、別の人間関係の数々を優先できるのであれば従いたいと考える。イエスは、彼ら全員を帰された！イエスは言われた、「手をすきにかけてから、うしろを見る者は、神の国にふさわしくないものである」(ルカ9:62)。

ヨシュアの死とイスラエルの背教：2:6-10

ヨシュアの死が再び記されている(ヨシュア24:29-31)。しかしながら、ここでの意図は、ヨシュアに率いられたイスラエルの世代がヤハウエである神への献身から疎遠になることを強調するためであった。

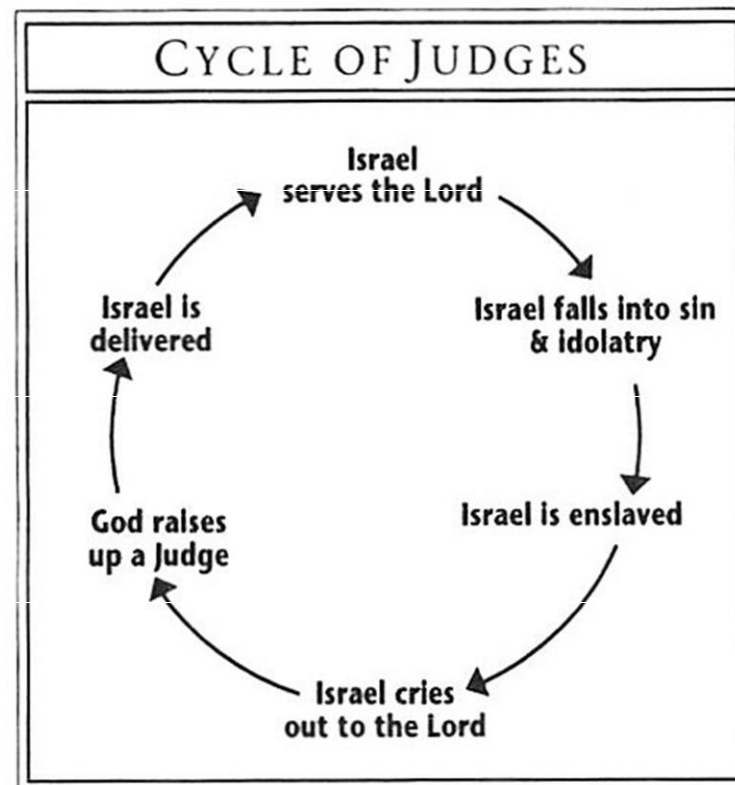
民はヨシュアの在世中も、またヨシュアのあとに生き残った長老たち、すなわち主がかつてイスラエルのために行われたすべての大いなるわざを見た人々の在世中も主に仕えた。そしてその時代の者もまたことごとくその

先祖たちのもとにあつめられた。その後ほかの時代が起ったが、これは主を知らず、また主がイスラエルのために行われたわざをも知らなかった。  
(2 : 7, 10)

全ての世代が、じかに神の素晴らしさを見、体験しなければならない。どの世代にも、先代の信仰生活の内に生きて行くことは出来ない。ヨシュアもカレブもそれぞれが神を見、エジプトからイスラエルの民を救出される際の神の奇跡の数々を体験した。40年間の荒野での生活の間、それぞれが神による備えと保護を体験した。約束の土地にスパイに行った際、二人は信仰の男として、神が巨人を克服して下さることを信じた。二人は、約束の土地に入国してからも信仰に基づく勇気をもって戦った。しかし、今、たいまつが次世代に手渡された。神には孫は存在しない。それぞれの世代が、神が彼らのために現れてくださった個人的な物語を持たなくてはならない。もし、ある世代がじかに神に従事することを怠ったなら、そのとき、その世代の信仰はたちまちのちを失った、単なる知的なアイデアとなる。そのような信仰はたちまち世の中の力の下に埋もれてしまう。

### 士師記時代の罪のサイクル： 2 : 11 - 3 : 6

この要約箇所は士師記全体の理解を深めるために大いに重要である。下の図は、イスラエルの歴史において、350 - 400年間もの間に何度か何度も繰り返された罪のサイクルを要約している。



それぞれのサイクルの終わりに、神はイスラエルを救出されるために士師たちを引き上げられた。士師は、私たちが今日理解している裁判官とは異なっていた。彼らは一般的に勇敢に国家を率いた強い軍の指揮官（デボラは例外であったが）であった。彼らはまた、イスラエル人のための事例の仲介となった。士師たちの名前と先導した期間は次の通りである：オテニエル40年>エホデ80年>シャムガル1年>デボラ40年>ギデオン40年>アビメレク3年>トラ23年>ヤイル22年>エフタ6年>イブツァン8年>エロン10年>アブドン7年>サムソン20年

(上のリストにサムエルは含まれていないが、実際、サムエルは最後の士師であり、他の国々のような王制時代へと国家を移行するのに貢献した。)

イスラエルの人々は、神、主を捨てて、バアルとアシタロテに仕えたので（2：12，13）、とは一体どういう意味でしょうか？当時、カナンの土地ではバアルとアシュトレス（バアルの女性の配偶者）のようなその土地の神々が地域を支配し、人々に報酬を与えると信じられており、また、その鎮守を崇拝（賛美）しなかった場合は罰を与えられた。イスラエルの民は、彼らの神であるヤハウエこそ、地域の鎮守よりも最高であり力強い神であることを信じようとしなかった。彼らはヤハウエの怒りや神による処分を受けることよりも、バアルとアシュトレスの怒りをこうむることを恐れた。このようにして、イスラエルの民は、ヤハウエの御心の内に生きる代りに、バアル（の要件を満たし）に「仕えた」。

彼らは「主を捨てた。」（2：12，13，17；3：7）。神は、捨てられる人の気持ちを知っておられる。哀れみ深い大祭司であられるイエスさえ、十字架にかかれ実の父親に御顔を背けられるということがどんなものであるかをご存知である。おそらく、あなたも誰かに捨てられて深く傷ついておられるかもしれません。自身を持って、神はあなたの気持ちをご存知であられるということを知ってください。さらに深く、神はあなたの感情を理解してくださっている。また、それでも、あなたの心を癒してくださることが出来る；主は、「わたしは、決してあなたを離れず、あなたを捨てない」と言われた。（ヘブル人への手紙13：5，6）神は、決して神の子を捨てられることはない。

#### 士師、オテニエル： 3：9－11

しかし、イスラエルの人々が主に呼ばわったとき、主はイスラエルの人々のために、ひとりの救助者を起して彼らを救われた。すなわちカレブの弟、ケナズの子オテニエルである。主の霊がオテニエルに臨んだので、彼はイスラエルをさばいた。彼が戦いに出ると、主はメソポタミヤの王クシャン・リシャタイムをその手にわたされたので、オテニエルの手はクシャン・リシャタイムに勝ち、国は四十年のあいだ太平であった。ケナズの子オテニエルはついに死んだ。（3：9－11）

私たちは皆、カレブは偉大な信仰を持ち、巨大な任務においても神を信頼することが出来た神の子であったことを知っている。そしてこれから、カレブの甥であったオテニエル、カレブの弟の息子もまた勇士であり、イスラエルの初代の士師について学びます。オテニエルは、以前、信仰と軍事的効率を

実証したので、カレブは娘を嫁に与えた（ヨシュア15：16，17）。今度は、イスラエルの最初の偉大な士師・指導者として登場する。ここで信仰が一世代によって例示される時、偉大なる祝福がその家系に与えられ、後続の世代に引き継がれることを見る。また神の予測不可能なご性質も見る。どうして、カレブの実の息子の一人が、次世代の偉大な戦士とならなかったのでしょうか？私たちに神と個人との神秘的なやり方を制御したり予測したりすることは出来ない。私たちに出来ることは、カレブがそうしたように、ただ情熱的に神のために生き、そのあとはどの家系に「信仰の火花」が生じ、何処かで炎となって燃え上がるかを待つのみである。

ここで、それぞれの士師たちが繰り返すパターンが見られる：主の御霊が神によって任命された士師の上に来て、その結果、イスラエルの民を敵から救出する力が与えられる。このリーダーシップのための油の注ぎは、士師たち、また、後に神の民を率いる王たちへの一時的な力の贈与であった。士師たちは、必ずしもモーセやヨシュアやサムエルのような理想的な指導者ではなかった。実際、士師たちの何人か、例えばサムソンは性格に弱いところがあった。しかし、それでも彼らは皆、イスラエルを弾圧から救出し、休息の時代へと導くために用いられた。この指導者の霊的一油の注ぎは取り下げられることもあった。（参照：詩篇51：11；第一サムエル6：14）

しかし、イスラエルの人々が主に呼ばわったとき、主はイスラエルの人々のために、ひとりの救助者を起して彼らを救われた。すなわちカレブの弟、ケナズの子オテニエルである。（3：9）たとえ私たちが不従順であるところから、また困難な因果関係にあるところから、または、その他いかなる難しい人生の環境に置かれているところから主に呼ばわったとしても、神は私たちの助けを求める叫びを聞いてくださり、近づいてくださる。そして、神はいつも誠実な心に応答してくださる。神に近づきなさい。そうすれば、神はあなたがたに近づいて下さるであろう。罪人どもよ、手をきよめよ。二心の者どもよ、心を清くせよ。（ヤコブ4：8）詩篇40章の御言葉を心に沁み込ませ、試練の時の励ましに用いましょう：**数えがたい災がわたしを囲み、わたしの不義がわたしに追い迫って、物見ることができないまでになりました。それはわたしの頭の毛よりも多く、わたしの心は消えうせるばかりになりました。（詩篇40：12）**わたしは耐え忍んで主を待ち望んだ。主は耳を傾けて、わたしの叫びを聞かれた。主はわたしを滅びの穴から、泥の沼から引きあげて、わたしの足を岩の上におき、わたしの歩みをたしかにされた。主は新しい歌をわたしの口に授け、われら

の神にささげるさんびの歌をわたしの口に授けられた。多くの人はこれを見て恐れ、かつ主に信頼するであろう。（詩篇40：1-3）

#### 士師、エホデ： 3：12-30

時に、神がイスラエルのために救出者を強められるように、また時にはイスラエルの不忠実の戒めのために敵を強められた。

イスラエルの人々はまた主の前に悪をおこなった。すなわち彼らが主の前に悪をおこなったので、主はモアブの王エグロンを強めて、イスラエルに敵対させられた。（3：12）

人類が置かれるあらゆる状況の表面的には、ただ単に一つの国家が優位を獲得したかのように伺える。しかし、神の立場から人間の状況をみると、意図的に一方の国家に、また他方の国家の勝利のために優位を与えておられたことが理解できる。

士師エホデの戦力について、いくつかの詳細に記録されている。エホデは、左利きの男たちが多く、優れた軍事能力で知られているベニヤミンの部族の出であった。（参照：士師記20：16）エホデは左利きであることを有利に用いてモアブの王エブロンを倒しイスラエルに自由をもたらした。

左利きの士師？エホデの時代は左利きであることが強さとみなされてはいなかった、むしろ、弱点とされていた。それでも、神によって強められることによって、この男たちの弱点が強さとされた。神に全てを委ねるならば、神の目的と栄光のために用いていただくことが出来る。神はあなたにどんなユニークな特性を与えてくださっているのでしょうか？あなたはこれまで弱点、または負債と考えて来られた特性、経験、傾向を持っておられるでしょうか？それらを神の目的に用いていただくために委ねられたのでしょうか？ところが、主が言われた、「わたしの力は弱いところに完全にあらわれる」（第二コリント12：9）。もしかしたら、神の最大の戦力として、あなたの弱点を用いられるかもしれないことを誰に知り得ることが出来ましょう。

#### 士師、シャムガル：3：31

エホデの後、アナテの子シャムガルが起り、牛のむちをもってペリシテびと六百人を殺した。この人もまたイスラエルを救った。（3：31）

シャムガルについての記述はあっという間であった。シャムガルの士師としての地位は、エホデの時代と重複している可能性がある。または、士師記の著者が古代の原稿書きによくある明らかな容量の制限に直面したのかもしれない。それにもかかわらず、シャムガルの最強の攻撃は見落としてはならない：シャムガルは、やぎを付く棒を使って、片手で一度限りの離れわざで、600人のペリシテ人を一掃した！たったひとりで・・・たった一本の棒を用いて・・・600人の男たちを殺した男をあなたは何人知っておられるでしょうか？

#### 士師、デボラ： 4：1-5：31

シャムガルの記述はわずか一節であった一方、士師、デボラについての士師記での記述には、それは多くの注意が払われてあった（2章に渡った）。聖霊様が歴史の中で、神の目的のために用いられる女性の力に光を当てることを望まれたからである可能性が高い。デボラはまた、女預言者としても描写されている（4：4，5）。このことはサムエルを除いて、士師たちの中で特異であった。また、デボラが直接神からの啓示を受けていたことを示す。デボラだけでなく、ケニ人へベルの妻ヤエルもイスラエルの歴史のこの部分で輝くことになる。国家を救うために、二人の女性が神によって用いられた！その物語は二部に渡る：1）戦争の描写と 2）勝利の歌。

#### シセラとの戦い： 4：1-24

イスラエルの歴史の中でも最も恐ろしく、最も抑圧的とも言える時代に、神が女性の士師を用いられてイスラエルの自由を勝ちとる勝利をもたらされるということはなんと興味深いことでしょうか。この時代の敵は非常に残酷で異常によく武装していた。

エホデが死んだ後、イスラエルの人々がまた主の前に悪をおこなったので、主は、ハヅルで世を治めていたカナン王ヤビンの手に彼ら売りわ

たされた。ヤビンの軍勢の長はハロセテ・ゴイムに住んでいたシセラであった。彼は鉄の戦車九百両をもち、二十年の間イスラエルの人々を激しくしえたげたので、イスラエルの人々は主に向かって呼ばわった。(4:1-3)

ヤビンは20年間イスラエルを酷く虐げた。鉄戦車九百両の恐るべき力がその要因の一つであった。しかし、神は二人の女性を用いて、この手ごわい相手を迅速かつ不名誉な最後へともたらされた！

デボラは、敵軍に対抗するためにシセラによって率いる軍隊命令を指揮するために、バラクを呼び出した。しかし、バラクはデボラと一緒にいかない限り行きませんと宣言した。

バラクは彼女に言った、「あなたがもし一緒に行ってくださいれば、わたしは行きます。しかし、一緒に行ってくださいらないならば、行きません」。デボラは言った、「必ずあなたと一緒に行きます。しかしあなたは今行く道では善を得ないでしょう。主はシセラを女の手にとわたされるからです」。デボラは立ってバラクと一緒にケデシに行った。(4:8, 9)

両軍隊はキシオン川で鉢合わせた。シセラは全鉄戦車九百両を率いていた！しかし・・・

主はつるぎをもってシセラとすべての戦車および軍勢をことごとくバラクの前に撃ち敗れたので、シセラは戦車から飛びおり、徒歩で逃げ去った。(4:15)

どのようにバラクが徹底的にシセラと戦車の力を敗走することが出来たかについての記述は無い。しかし、デボラの賛歌(5章)に2つの参照が必要な手がかりとなる：

主よ、あなたがセイルを出、エドムの地から進まれたとき、地は震い、天はしたり、雲は水をしたたせさせた。(5:4)

もろもろの星は天より戦い、その軌道をはなれてシセラと戦った。キシオンの川は彼らを押し流した、激しく流れる川、キシオンの川。わが魂よ、勇ましく進め。(5:20, 21)

あらゆる戦車の軍隊をひざまずかせることが出来る一つのことがある：激しい暴風雨によってキシオン川が氾濫し、谷が泥で溢れた！シセラ司令官さえもが、彼の戦車から飛び出し、徒歩で生き延びるために逃亡していたので、おそらく、上記が起こった可能性が高い(4:15)。神(天と地の主)神は、雷雨を用いて、シセラの誇った軍をへりくだらせ、イスラエルに勝利をお与えになった！

しかし、誇り高く、残虐な抑圧者であるシセラの屈辱はそこで終わりではなかった。物語が展開するにつれて、彼は徒歩で逃げ、ケニ人、ヘベルの妻、ヤエルの幕屋を友人の幕屋の避難所と思い込み逃げ込んだ。しかし、ヤエルはシセラやその王ヤビンの支持者ではなかった。このようにして、シセラが温かい毛布にくるまって眠り込んでしまい、ヤエルはハンマーと幕屋の杭を手に、神殿に向け一撃で殺した！デボラがバラクに預言した通り・・・シセラの敗北による名誉は、女性の上に降りた！

神は、あらゆる奇想天外な方法で勝利をもたらしてください。だからこそ、私たちは、目の前のチャレンジの度合いに惑わされることなく、常に神に視線を置くことを学ぶ必要がある。パロの軍隊は紅海に飲み込まれた。エリコの壁は崩れ落ちた。太陽はギベオンのために留まった。シセラの戦車は風雨で動きが取れなくなった。あなたの想定内に神を制限してはならない。神には「私たちの内の動力に応じて、より上に、我々が求めたり考え得るすべてを越えて行くことが出来る」(エペソ人3:20)！神にあなたの闘いを委ねましょう！神のやり方で勝利を得ていただきましょう。

### デボラの賛歌： 5:1-31

旧約聖書の物語の中にはモーセの賛歌(出エジプト15)やハナの賛歌(第一サムエル2)のように、いくつもの重要な賛歌が隠れている。共同賛美歌となり、これらの曲は神の偉大な御業の記録を形成している。ここに厳しい弾圧から神の力強い救出を祝うデボラの賛歌がある。デボラの賛歌を是非最初から最後までお読みください。力強い、いくつもの教訓がこの歌の中に見出すことが出来るでしょう。

### 1. 聴衆と軍隊

デボラの賛歌の一部は、戦いに勇敢に挑んだ部族に敬意を表し、挑まなかった部族を非難している。エフライム、ベニヤミン、イッサカル、ゼブルン、

ナフタリはデボラと共に参戦し、デボラは歌の中で高い評価を与えた。しかし、他のいくつかの部族は様々な理由から戦いに参戦しなかった。

- ー ルベンは思案したあげく；成し遂げられなかった。
- ー ガド（ギレアテ）はヨルダン川の向こう側の土地での身の安全を選んだ。
- ー ダンは出荷や商業的利益のために忙しく留まった。
- ー アシェルは川岸の闘いよりも、浜辺での平和なひと時を選択した。

## 2. 神-人間のパートナーシップ

「イスラエルの指導者たちは先に立ち、民は喜び勇んで進み出た。主を賛美せよ。もろもろの王よ聞け、もろもろの君よ、耳を傾けよ。わたしは主に向かって歌おう、わたしはイスラエルの神、主をほめたたえよう。主よあなたがセイルを出、エドムの地から進まれたとき、地は震い、天はしたたり、雲は水をしたたらせた。（5：2-4）

指導者たちは導き・・・人々は志願し・・・主が立ち上がられた。神が物事を成される際には必ず神と人間とのパートナーシップが存在する。使徒パウロが教会の成長を描写したとき、神-人間のおパートナーシップを描いた：

わたしは植え、アポロは水をそそいだ。しかし成長させて下さるのは、神である。だから、植える者も水をそそぐ者も、ともに取るに足りない。大事なのは、成長させて下さる神のみである。植える者と水をそそぐ者とは一つであって、それぞれその働きに応じて報酬を得るであろう。わたしたちは神の同労者である。あなたがたは神の畑であり、神の建物である。（第一コリント3：6-9）

神は世を変えていかれるために、人々とパートナーを組みたいと心から願っておられる。しかし、神は私たち自身の意思で、神の目的のために利用可能な状態に整うまで待っておられる。あなたはこの戦いを導いた、もしくは志願した、偉大で勇敢な民族の足跡をたどることによって、史上最高であり最大の勝利となるために、神とパートナーを組んでおられるのでしょうか？それとも、様々な口実をもって家に留まり、じかに神の偉大な御業を見る機会を損ねておられるのでしょうか？以前誰かが、この世には3種類の人間がいると言ったことがある：物事を起こす人、物事が起こるのを見ている人、そして、「何が起こった？」と尋ねる人。今日の神の大いなる御業の数々に、更

に深く関わるために、あなたは何かができるのでしょうか？どこで仕えることができるのでしょうか？どこで導くことができるのでしょうか？どこで役に立つことができるのでしょうか？

## 3. 契約を固めた一人の女の力

ケニビとヘベルの妻ヤエルは、女のうちの最も恵まれた者、天幕に住む女のうち最も恵まれた者である。（5：24）

ヤエルにとって何という瞬間であったことでしょうか！彼女はその朝目覚めた際に、神が恐ろしいシセラを彼女の足元に横たえてくださるなどと期待もしていなかったはずである。しかし、実際に起こったとき、彼女には準備が整っており、行動することができた。彼女はノックアウトの一撃を与えるために供えられていた物を用いた。もてなしの賜物を用いた：ヤエルは出てきてシセラを迎え、彼に言った、「おはいりください。主よ、どうぞうちへおはいりください。恐れるにはおよびません」。シセラが天幕にはいったので、ヤエルは毛布をもって彼をおおった。彼女は、手元にあるものを用いた：シセラが水を求めると、ヤエルは乳を与えた。すなわち貴重な鉢に凝乳を盛ってささげた。彼女は強さを用いた：ヤエルはくぎに手をかけ、右手に重い槌をとって、シセラを打ち、その頭を砕き、粉々にして、そのこめかみを打ち貫いた。

決定的瞬間が揭示される時になって整えるのでは間に合わない。私たちは、そんなときに備えて、準備を整えておかなければならない。既に確信ができていなければならない。神を信頼する勇気が既に私たちの心の内に定義されていなければならない。ヤエルはこの決定的瞬間のための心の準備が整っていたのである。でなければ、彼女は恐怖に克服されていたであろう。引き下がったであろう。逃げたであろう。失敗を恐れたであろう。神を恐れるのではなく、シセラを恐れたであろう。そうではなく、心の中に既に宿るもの（勇気と確信）があったので、ヤエルは決然と行動することが出来た。このようにして、彼女の一生に一度の機会は聖書の歴史の中の転換期となった。シセラの最期とイスラエルの新たな始まりが、ケニ人ヘベルの妻、ヤエルの足元において封印された。「最も祝福された女性」である！

#### 4. デボラの転換を及ぼす影響

アナテの子シャムガルするとき、ヤエルの時には隊商は絶え、旅人はわき道をとおった。イスラエルには農民が絶え、かれらは絶え果てたが、デボラよ、ついにあなたは立ちあがり、立ってイスラエルの母となった。人々が新しい神々を選んだとき、戦いは門に及んだ。イスラエルの四万人のうちに、盾あるいは槍の見られたことがあったか。（5：6－8）

デボラの立ち上がりは、イスラエルの雰囲気を変えた。デボラが登場する前、イスラエルは怪物に包囲された子供たちが恐れおびえながら歩んでいた。自由に堂々と路を歩くことさえもできなかった。シセラとその軍隊を恐れながらぐるぐると回り道をしていた。そのとき、デボラが立ち上がった、そして「新しい神々が選ばれた」。イスラエルはデボラの指導下でヤハウエへの献身に返った！更に、「戦いは門に及んだ」。これ以上、敵による抑圧を受け入れなかった。イスラエル 40,000 戦士の中には、盾一つ槍一本存在しなかった（8 節）；しかし、神には、まだイスラエル 900 の鉄戦車の上に勝利を与えることができるお方であると信じる霊的強さを持っていたので、彼女の信仰を共に信じるように国民を結集した！この強さは神への愛から流出する者であった。主よ、あなたの敵はみなこのように滅びあなたを愛する者を太陽の勢いよく上るようにしてください」。こうして後、国は四十年のあいだ太平であった。（5：31）デボラとは－イスラエルの闇の力を破り、民を明るい新しい日へと導くために先導した強力な日の出の様であった。

デボラの物語は、神の作品における女性の役割についての聖書の中で最も強力な物語である。士師記の中には 13 人の士師が登場する。デボラはその中でも最も偉大な士師とみなされるべきである。デボラがハイライトされているだけでなく・・・また、彼女の強さは当時の男性の弱さを背景に設定されている。男たちは優柔不断で恐怖の中におびえまくっていた。デボラは神聖な力を受けて立ち上がり、イスラエルの歴史の流れを変えた。女性の皆さん、神のご栄光のために、あなたの内に託して下さっている驚くべき力を決して過小評価なさらないでください。実際に、あなたの大胆な構想を用いて状況の流れの向きを変えられる体験を何度もするはずですよ。デボラの物語の中から勇気を見出し、彼女の方法を手本にしましょう：1) デボラはヤンの木の下に座って、神と共に時を過ごした。2) 神の指示に忠実であった。3) 神の命令を果たすために助ける人々に大胆に神の命令を宣言した。4) 自ら戦った。5) 神を賛美し盛大に祝った。